

(仮称)

ゆきのさと自由が丘通信

《2020年4月、小学校開校をめざして》

認定 NPO 法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会 / 「自由な小学校」をつくる会
札幌市豊平区月寒東 1-15-5-11 ☎(011)858-1711 Fax(011)858-1333

閉校舎施設利用を打診して … A市訪問

8月1日(水)に、A市役所へ閉校舎施設使用願いのために説明に行ってきました。
代表理事：吉野、呼びかけ人代表：細田、事務局：綿谷の3名で訪問し、企画経済部3名・市民福祉課長・教育委員会生涯学習部総務企画課2名の方々に説明を聞いていただきました。説明は、吉野からこれまでの経緯や認定 NPO 法人の教育実践や活動について、細田から新しい小学校の教育内容と施設利用願いの内容、綿谷からこれまでの集会や市民・保護者の思いや考えについて述べました。

施設利用願いの書面には、以下のように要望の背景・理由を示しています。



- 私立の小学校として教育活動を行うために、かつ学校教育法に基づく認可を受けるためにも敷地・校舎を必要とします。私どもの「自由な教育・学校」としての教育理念、学校の構想は確固としたものがあり(別紙添付)、それに対する保護者・市民の支持などは多くの署名を集約中であり、公立学校に対するオルタナティブな教育を時代が要求するところでもあります。
- 他方、御市の小中学校の再編・統合が進む中で、閉校舎を利用して再び小学校を始めることは、御市方針に逆行し、新たに再編・統合される学校と競合するのではないかと懸念が生じます。しかし、私どもがめざす小学校は既存の学校とは違う方針により「質の異なる教育」を行うことになるので、むしろ当該地域のみならず、道央圏、道内全域、広くは全国から児童が集まり、通学、一家転住、見学者等の増加などにより、地域の活性化につながる面も持っていると考えます。もちろん、当該地元の方々の教育的な力をお借りし、地域にとけ込む学校の設立をめざしていきます。
- 先例として、私どもがモデルとする、和歌山県の学校法人「きのくに子どもの村学園」小学校・中学校があります。「自由な教育」を標榜して橋本市の閉校跡地に1992年に認可校として開校し、現在は福井、山梨、福岡を含め4つの小中学校を拡充している学園です。

是非とも御市の閉校舎の貸与を検討して頂きたく、お願い申し上げます。(中、後略)

さらに、署名も800ほど集まっていて1000に達しつつあり、「自由な小学校」を望む人が潜在的にもっといるだろうということや、設立めざす学校はけっして「不登校の子どもたち」だけを想定したものではなく、広く自由な教育を望む子どもたちや保護者のための新たな選択肢であり、基本的に認可の学校なのだということも強調してきました。A市側も、現時点では閉校舎の利用が決定しているわけではないとの返答で、検討のため預からせてください、ということでした。



そして、相手側との質疑を終えた後、当日急ではありましたが、閉校予定の2つの学校を見学させていただくことになり、実際に3名で見してきました。両校とも自然豊かな環境で校舎は現場の先生方や校務補さんが大事に手入れしていることが伝わり、いろいろとイメージがわく貴重な見学となりました。

今後、他の自治体にも、いろいろ情報を受けながら、訪問時期を考えようと検討しています。(なお、個別接触先もあり)

「自由な小学校づくり」進行報告会・懇親会

7月28日(土)14:00~17:00 自由が丘月寒センターで「自由な小学校づくり」進行報告会・懇親会を行いました。参加者は、これまでの3回の説明会に来られなかった方や、2回、3回と参加された方々を含めて20名ほどでした。月寒センターの3階の横にちょっとした遊びスペースがあるので、そこでスタッフの北さんが自分のお子さんと一緒に参加したお子さん7名ほどを保育してくれました。



進行報告会の方は、これまでの経過説明と今後の自治体交渉の見通しなどを説明し、その後参加者の方々から自己紹介も兼ねて一言ずつ思いや感想を語ってもらいました。乳幼児を抱いていらっしゃる方もいて、自由な学校への期待や思いを熱く感じました。

懇親会は、15:30 過ぎからで、ちょっと早い夕食でしたが一人ひとりにお弁当が配られ、いろいろな方からの差し入れもあり、ビールやワイン、ソフトドリンクで乾杯しました。はじめそれぞれ自由に語



らっていましたが、20分ほどしてからそれぞれ一人ひとりのトークタイムに入り、この会に参加した理由や自由な学校への思い、ご自分の育ちや自分が経験してきた教育の閉そく感などについて語った方もいらっしゃいました。和気藹々とゆったりとした雰囲気の中で、「ここなら自分の思いを自由に語って受けとめてもらえる」と感じられた方が多かったようで、「2回目はいつですか?」とのリクエストさえいただきました。一人ひとりをかけがえのない一人の人格として尊重し

合えるから多様な価値観を受けとめられる寛容さが生まれる場というのは、子どもたちだけでなく、大人にとっても心地よいことです。私たちがめざす「自由な小学校」は、子どもたちとともに大人たち(スタッフ、保護者、地域の人たち)も一緒に学び成長する場になるでしょう。

さて、その後の報告説明会を次のように設定しました。前半は初回参加者に説明会、複数回参加者は学習会、後半は全体で報告会にしたいと思います。

連絡は綿谷さん(chiharu.wataya@gmail.com)か、

月寒センターの吉野(表題宛先か codmokan@agate.plala.or.jp)へ、9月18日(火)まで。

「自由な小学校」をつくる会 説明・学習会、報告会(本年第6回)

と き: 9月22日(土) 14:00~16:00 ところ: スキアプラザ 宮の森 (宮の森3条1丁目)

《先日届いた加藤多一(作家)さんからのメッセージ》

「小学校を作る」いいねえ。全面協力したい。

“ 私事ですが… タイの学校を訪問して ”



私(細田)事ですが、8月5日(日)~12日(日)にタイに行ってきました。前任教で国際理解に深くかかわった関係で、D-net(開発教育ネットワーク)という市民研究団体に入っており、JICAと協力して国連のSDGs(持続可能な開発目標)を教育現場に広めるための教材開発をすることになりました。そのSDGsの「4.質の高い教育」をテーマに、日本人にとって親しみ深いアジアの国タイの学校教育を取り上げ、タイ国内の教育格差や教育の質を考え、それを鏡として日本自身の教育の質やあり方を考える単元を作りたいと思っています。タイの識字率は約98%で、義務教育:中学校までの在学率も約97%です。北部の少数民族やごく一部のスラムを除くとほぼ100%で、途上国とはいえません。ところが2015年のPISA(OECDの学習到達度調査)では、科学的応用力54位、読解力57位、数学的応用力54位と、同じASEANのベトナムの8位、32位、22位にも負けています。ちなみに日本は2位、8位、5位です。

タイの学校を訪問すると、子どもたちは明るく元気。インタビューすると、学校も家族的で楽しく、嫌なこともない。タイ人の「マイペンライ」(クヨクヨせずのんびり)気質もあり、何か幸せそうでした。ただ、スマホが蔓延して授業中でもスマホいじりが…。教師は仏教熱心な国の礼儀もあり尊敬されているのですが、公立学校の給料は高くなく、ほぼ全先生が希望生徒対象の有料放課後塾でアルバイトをしているそう。私立は授業料が高く、それでもタイ人の学校は家族的なのですが、インターナショナルスクールはもっと授業料が高く、総合学習的な質の高い学習に取り組んでいました。首都バンコクと比べ地方チェンライの学校はのんびりして都市と地方の差もあり、金で教育を買う社会構造が富裕層と庶民・貧困層の格差を固定化・助長している課題を感じました。でもそれは日本も同じこと。しかも、いくら国際的に学力調査結果が上位でも、自己肯定感は欧米先進国と比べかなり低いし、不登校やひきこもり、自殺、いじめが多い。背景に過度に競争的な学校教育環境があることは国連からも改善勧告されているところ

です。タイに陰湿ないじめはないようです。どっちが幸せなのでしょう? わたしたちの「自由な小学校」は、競争などなくても子どもたちの自然な意欲を生かして協同的に学びを深め、思いやりのある人間関係を育てていくことになるでしょう。それを理解し共有してくれる地域・自治体とつながって進めていきたいものです。

